

地域まちづくり推進協議会の合同会議が開催されました

2月4日(水)、旭川市市民活動交流センター(CoCoDe)で、地域まちづくり推進協議会の合同会議が開催されました。



旭川大学准教授
大野剛志さん

これは、市内14地域に設置されている協議会の委員が一堂に会し、活動事例発表等を通して市や協議会相互の情報交換を行い、今後の協議会活動の活性化に寄与するために毎年行われているものです。

当日は市内全域から82名のまち協委員が参加。市内4地区の協議会の代表者による活動事例発表では、神居まちづくり推進協議会の佐々木和雄副会長が登壇しました。平成26年度の神居まち協の事業として、①「孤立死ゼロを目指して」シンポジウムの開催、②「かむい遊びの学校～子どもとつくる遊び場とまちづくり」の実践、③「カムイ(まち協)新聞」の発行、④「神居支所マルシェ」の開催の4点について説明。当日コメンテーターを務めた旭川大学の「大野剛志准教授」の講評では、「地域で自分たちの遊び場・公園を総チェックしているところがすごい。また、子ども目線で遊び場を考える中学生会議も開催し、カムイ新聞の発行で地域の魅力の情報発信もするなど、総合的なまちづくりになっている」と大変良い評価を受けました。



神居まち協の平成27年度の取組みはまだ決まっていますが、本紙では今後とも地域の皆さまにとってタイムリーな情報を発信していきます。どうぞお楽しみに。

お知らせ

住民センター・地区センターを ご利用下さい！！

住みよい地域社会の形成を目的とした施設です。
「サークル活動」や「各地域行事・会合」「スポーツ」「冠婚葬祭」など幅広くご利用いただけます。

開館時間：午前9時～午後10時
休館日：年末年始(12/31～1/3)
問合せ：

神居住民センター
(神居2条17丁目)
電話61-9073



忠和地区センター
(忠和5条5丁目)
電話63-3854



神居公民館 自主運営講座

女性大学・女性学級・百寿大学の生徒募集！！

神居公民館と一緒に学びませんか？多くの仲間作りをしませんか？
一般教養・運動・料理教室・音楽鑑賞などバラエティにとんだ講座を
楽しく多くの仲間と学びます。

女性大学	とき：5月14日～翌年2月の木曜日 全14回 午前10時～午後3時まで 運営費：年3,000円(教材費等は別途) 募集：20名
女性学級	とき：5月12日～翌年2月の火曜日 全10回 午前10時～午後3時まで 運営費：年3,000円(教材費等は別途) 募集：20名
百寿大学	とき：5月13日～翌年2月 月2回 原則として水曜日 午前10時～午後3時まで 運営費：年4,000円(教材費等は別途) 募集：100名

【申込み】 ※女性大学と女性学級は講座内容が異なります
女性：3月23日(月)から電話受付
神居公民館 電話61-2575(平日の8:45～17:15)
百寿：4月15日(水)午前9時～11時30分に直接神居公民館へお越しください(当日来られない場合はご連絡ください)

・・・あとかき・・・

冬まつりやW杯等、冬ならではのイベントがたくさん開催されましたが、皆さんはご覧になりましたか？
ふと気がつけば、もう年度末です。4月から環境が変わる方も多いと思いますが、頑張ってください！
カムイ新聞も、より一層地域の情報を発信していきたいと思っていますので、楽しみにして下さいね。
次号予告 次号は7月に発行予定です。どうぞお楽しみに！！ 記：N・F

◆◆ご意見・お問合せ◆◆

編集・発行：神居まちづくり推進協議会(まち協)
〒070-8012
旭川市神居2条9丁目1番19号 旭川市神居支所内 編集室
TEL 0166-61-2311 FAX 0166-61-8294
E-mail kamui_br@city.asahikawa.hokkaido.jp

まち協委員

石坂会長、佐々木副会長
荒木副委員、大河委員、笠原委員、小平委員、
清水委員、林委員、廣瀬委員、藤原委員、
古田委員、古山委員、三宅委員



第10号

平成27年

3月20日発行

—主な内容—

- * 頑張る地域の子どもの紹介
- * かむい遊びの学校プロジェクト
- * 忠和八条西町内会の紹介
- * まち協合同会議の開催

カムイ新聞
まち協

輝け！地域の星☆ ～挑戦する子どもたちin神居②

いつの時代も、目標に向かって努力する子ども達の目は前向きで、ときに大人たちを勇気づけてくれることがあります。今年度神居地区で素晴らしい活躍をした子どもたちの素顔を紹介します。

「目標は北海道記録更新」～陸上

「走る前は緊張するけど、走り始めれば無心になります。」と屈託のない笑顔で話してくれたのは岩田梨花さん(神居東小4年生・神居東陸上少年団)。

陸上競技女子800メートルで2年連続全道大会優勝を果たし、全道大会1週間前に行われた記録会では、目標にしていた北海道記録を樹立した。

指導に当たる神居東小の阿部広嗣教諭は、「彼女の良さは体が強くけがをしないところです。足が痛いと言ったことを聞いたことがありません。」と評する。

5年生の目標を聞くと、「北海道記録更新です。」と笑顔で答えてくれた。



「全国トップクラスの実力」～水泳

決して調子の良い状態ではなかった。足首の捻挫の影響からしばらく練習できないことにより、泳ぎ込みが足りなくなっていた。それでも7月に行われた高体連の全道大会で松村翔太君(旭川商業高校2年・忠和中学出身)は、100メートル自由形で1位、50メートル自由形で2位になり、全国中学大会2位の實力の片鱗をみせてくれた。

コーチの佐藤淳さんは「彼の良さはここの一番での集中力の高さです。目標の大会に向かって照準を合わせてくれます。」と語ってくれた。

今後の目標を聞くと、「学年が上がると高校ラストシーズンになるので、調子を取り戻しつつ、全国大会で良い成績が出るように頑張ります。」と答えてくれた。



子どもの理想の遊び場を考える ～「かむい遊びの学校」プロジェクト

いつの時代も、子どもの健やかな成長や発展を考えた場合、地域の仲間集団に属して質の高い遊びを経験することが大切であることは疑う余地のないところでしょう。しかし近年、地域の公園で子どもたちの「遊びの群れ」を見ることが少なくなりました。

神居まちづくり推進協議会では、こうした子どもの遊びの現状に着目し、質の高い遊びの実現、遊びの群れを地域に取り戻すために動き出しています。それが「子どもとつくる遊び場とまちづくり事業」（名称「かむい遊びの学校」プロジェクト）です。

地域の公園は、子どもの欲求に応えているか



小学生の高学年や中学生の遊びの受け皿にはなっていない」という感想を持っています。

今の子どもたちの遊びの現状について「強い危機感」を感じているという佐々木さんは、「『遊びは子どもの栄養素』という言葉どおり、遊び場は子どもにとって、様々な体験活動の積み上げができる場であり、子どもの健全な成長にとって必要不可欠なもの」と話します。



遊び場子ども会議で子どもたちの声を聞く

当の子どもたちは、今の公園にどの程度満足しているのでしょうか。昨年12月28日に開催された「遊び場子ども会議」で、忠和地区と神居中央地区の中学生からは「公園には必ず時計がほしい」、「安全でありながらもワイルドな遊びができる公園であってほしい」といった実のある意見が交わされました。

そんな議論を満足そうに見守る佐々木さん。「好奇心や冒険心が満たされる場が必要という方向性は概ね間違っていない。あとはどこまで、大人が質の高い遊びの仕掛けをしてあげられるかだ。まずは、大人が地域の行事に進んで参加するなど、地域とのつながりを子どもに実感させてあげることも必要だ」と力を込めて話します。



「遊び場マスタープラン」の策定に向けて

現在、本協議会は公園の点検結果を基に、「遊び場マスタープラン」の作成を進めています。今の地域の公園に何があって、何が足りないのか、どのように改善したらよいかなどがプランに盛り込まれます。このプランは、今後の遊び場整備等の根拠になる重要なプランですが、佐々木さんは、「このプランの完成はあくまでも通過点」と話します。



「かむい遊びの学校プロジェクト」はスタートしたばかりです。マスタープランも、今年度中の完成を目指して作業が進められていますが、佐々木さんの言うように、このプランの完成によって同プロジェクトが完了するわけではありません。新年度からは、いよいよ同マスタープランを実行に移すことになります。市との連携なども今後必要になってきます。決して低いハードルではありませんが、子どもの理想の遊び場の実現、子どもの遊びの群れを地域に取り戻すため、神居まちづくり推進協議会は今後も検討を続けます。同時に、このプロジェクトの進捗状況などについては、本紙などを活用して、皆さんに情報提供していきます。

シリーズ～神居住民の健康について考える⑧ こんにちは！地区担当保健師です！

+10（プラステン） ～今より10分多く身体を動かそう～

旭川市保健所保健指導課の保健師の浅沼です。北海道の桜はもう少し後になりますが、春めいてきましたね。今回は「+10（プラステン）」今より10分多く身体を動かそう！についてお話しいたします。

今よりも10分身体を動かすことで、生活習慣病やガンの発症、ロコモティブシンドロームや認知症の発症を低下させることが明らかになりました。さらに+10（プラステン）を1年続けると1.5～2kgの減量の効果が期待できます。良いことだらけですね♪



今年度は珍しく雪も少なく、除雪は楽でしたがその分、皆さん冬は運動不足気味ではないでしょうか？冬は動量が減り筋肉も落ちやすいと言われています。

まずは気軽に始められるウォーキングで10分歩いてみませんか？

Twitter (ツイッター)・Facebook (フェイスブック)



随時更新中！

カムイ新聞 検索



シリーズ～神居の防災について考える⑨ 暴風雪に対する備えについて

北海道では暴風雪災害が繰り返し発生しており、平成25年3月に発生した暴風雪により9人死亡、500台以上の車が立ち往生した事例は記憶に新しいところです。

冬季間の悪天候時には、不要な外出をすることは控えましょう。

徒歩による外出中に暴風雪に遭遇した場合、視界不良により方向感覚がなくなり、自分の位置がわからなくなることがあるので、近くの建物に避難して天候の回復を待ちましょう。

車の運転中に吹きだまり等により立ち往生したら、排気ガスによる一酸化炭素中毒を防止するためにエンジンを停止し、車内で救助を待ちましょう。その際、防寒着、毛布、寝袋、カイロ等で体温の低下を防ぎましょう。

防寒等でやむを得ずエンジンをかけるときは、排気管付近を除雪することが重要です。

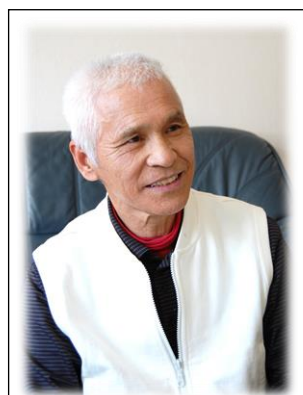
冬季間は車内に防寒着、毛布、寝袋、カイロ、長靴、手袋、スコップ等を備えておきましょう。



防災安全部 防災課より

元気に頑張る町内会 ～忠和八条西町内会の紹介

平成23年度に市民委員会発足50周年事業として実施された「元気に頑張る町内会大賞」で審査員特別賞を受賞した「忠和八条西町内会」を紹介します。菊地会長にお話を伺いました。



忠和八条西町内会
会長 菊地義則さん

——受賞当時の話として子ども会の復活が1つの課題としてあげられていますが、その後はいかがですか。道路脇の花壇の整備を行っていきまして、当時は大人がやっていたんですが子供達にも参加をしてもらおうようにしました。コンクールという形で実施しました。

また、3年前から凧を作り、凧揚げするイベントを企画しています。凧を作るところからやって、広場で揚げるというような機会はなかなかないのではないかと考えています。子どもが対象のイベントには回覧板の文章にもふりがなを振ったりして参加しやすいような工夫をしました。

——環境美化の活動として生ゴミの堆肥化や剪定枝のチップ化にも取り組んでいるとのことですが。

コンポストや段ボールを使っています。平成23年に12世帯から始まりました。既にやっている人が町内にいましたので、その方に色々教えてもらったりもしました。現在では32世帯が生ゴミの堆肥化に取り組んでいます。これからまだまだ増やしていきたいと思っています。

——現在町内会の課題としてはどんなことが挙げられますか。

いろんなことに取り組んでいますけどどうしても役員中心になってしまうので、もっと幅広い人に集まって欲しいというのが現在の課題です。

また、後継者の育成もそうですね。役員は年齢が高い人が比較的多いので若い人にも参加してもらいたい。そのためには若い人たちが興味を持って参加してもらえるようなイベントや活動にも取り組んでいかなければならないと思っています。

今回は元気に頑張る町内会ということでお話を伺いました。積極的に活動はしていますが、まだまだ課題も多いという前向きな姿勢が町内会の「元気」を支えているのだと思いました。

